

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
1-1.	学部から大学院までを見通した教育体制の構築	1-1-①	学部共通教育体制と国際性涵養教育体制の強化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	○学部共通教育体制の充実化 ・全学共通教育科目をカテゴリー毎に統括する各部長が、科目により各部局と連携しつつWGを主体として行う全学共通教育の質保証に向けた活動 ○国際性涵養教育プログラムの整備 ・英語教育体制整備の継続的実行 - 総合英語、実践英語(e-ラーニング)、TOEFL ITPを含む英語授業の継続的実施と実施体制の見直しと改善 - 授業および教育方法改善のためのFD活動 - ESAP（特定学術目的の英語）教材の継続的開発、将来のカリキュラム化に向けての英語授業での試行の継続 - 英語高度運用能力を持つ学生の育成 ・全学共通教育から高年次までの一貫した多言語教育体制の整備 - 全学共通教育における国際性涵養教育の継続的実施と改善策の検討 - 高年次における国際性涵養教育の継続的実施と成果の検証 ・多言語学習支援体制の整備 - OUマルチリンガルプラザ（多言語対応自律学習センター）の継続的運用と機能強化 - オンライン学習支援体制整備の継続 - 大阪大学における言語学習リソース・施設についての情報集約、情報提供のワンストップ化 ・国際性涵養教育（マルチリンガル教育）の企画・運営・評価・改善等にかかる事務組織設置についての検討の継続
		1-1-②	大学院教育支援体制の強化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 国際共創大学院支援事務局	○大学院横断型教育組織の運営体制の充実化 - 国際共創大学院学位プログラム推進機構の運営体制強化のため、リーディングプログラム、卓越大学院プログラムなどの大学院横断型事業等を活用しながら、全学をあげて行う大学院横断型教育組織に関わる教育研究活動を重点的に支援するとともに、人員配置（教授2名）と活動のためのスペース確保等を行う。 ○学内における横断型教育に係る連携体制の構築と安定化 - 学部共通教育組織との連携体制の構築と安定化のため、国際共創大学院学位プログラム推進機構の教員が全学教育推進機構の兼任となり、ともに学部向け横断型教育の検討を行う。さらには、PDCAサイクルにより改善の方向性も探る。 ○部局における大学院教育との連携強化 - 部局における大学院教育とさらに強固に連携し、大学院横断型の機能を推進するため、国際共創大学院学位プログラム推進機構の大学院横断型教育統括部門において、学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム（DWAA）に関する新たな枠組み「高度教養モジュール（仮称）」を構築し、実装へ向けた課題の抽出と対応の検討を行う。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		1-1-③	Student Life-Cycle Support Systemとその活用による教育・研究指導体制の強化ならびに運営体制の整備	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	○教学データの収集、統合、解析、学生・学習支援システムの開発 ・教育データの収集、統合、解析のシステムの構築の開始 ・分析結果の部局及び学生へのレポートシステム仕様の作成 ・教務、学生データを集約したデータベース(Learners Record Store)の構築の開始 ○Student Life-Cycle Supportの運営組織の拡充 ・教員組織の拡充 ・支援事務組織の拡充 ○学部、大学院及び共通教育・横断型教育関係組織との連携体制構築 ・スチューデント・ライフサイクルサポートセンターによるデータ活用法等の研修会をオンラインを中心として複数回開催し、Student Life-Cycle Supportシステムの本格運用に備える。 ・運営協議会や教員の兼任を通じて関係組織との連携を強化する。 ・大学院学位プログラム共創機構の構想に向けて国際共創大学院学位プログラム推進機構(i-TGP)との連携を強化する。
		1-1-④	自主性、指導性、協調性などを培うための課外活動・キャリア支援・修学支援体制の強化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 学生・キャリア支援課	○各種自主研究事業の安定的運営のため、事業を推進、成果を広報し、事業に参加する学生数170名／年に到達させる。 ○(1)経済的に困窮する博士(後期)課程学生の授業料免除申請者のうち、授業料免除の適格者に対する免除の実施。(100%) (2)生活費相当の支援をうける博士(後期)課程の学生の確保 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロシップ創設事業、次世代研究者挑戦的研究プログラムの実施 ○課外活動を通じた人材育成 課外活動サポートのための取組として、①課外活動環境の整備・充実、②優秀な課外活動の業績を収めた学生の表彰、③大学をあげて実施する体育大会や学園祭のバックアップ、を毎年度着実に実施 ○キャリア形成の推進及びキャリア教育・支援体制の充実 ①学生からの相談内容が見える課題と社会で求められる人材ニーズに対応した学部生のキャリア支援科目の受講生を630名／年とする。②博士前期課程・修士課程におけるキャリア支援イベント参加学生者数を700名／年とする。

令和5年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		1-1-⑤	対面授業とメディア授業の併用による「ブレンデッド」教育体制の確立	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	○ブレンデッド教育の普及を推進するための体制の構築 (1)ブレンデッド教育を円滑に導入するための全学教育推進機構の教室の環境整備計画の検討 (2)ブレンデッド教育普及のための教育支援システムとICTサポートの充実を図る。 (3)教員および学生に対する技術的サポート体制の拡充/経済困窮学生への支援を行う。 ○ブレンデッド教育のためのFDの強化 (1) 大学教員の教育支援・能力開発（FD） ・オンラインでのFDを実施する。また、大阪大学の教育、研究、社会学連携、学内組織運営の取組みをさらに向上させることを目的とした新任教員研修制度を実施し、全学及び全学教育推進機構、並びに各部局等が実施している各種教員等向け研修を体系化し、新規採用の講師・助教等にプログラムを提供する。 ・オンデマンド形式のFDのコンテンツを蓄積、整理し、学内専用サイトから常時閲覧できるよう整備する。 ・ブレンデッド教育推進のためのFDの実施 (2)大学院生のキャリア開発としてのブレFDの一つとして、未来の大学教員育成プログラムFFP（Future Faculty Program）を実施し、大学教員志望の学生を支援する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
1-2.	学部・大学院教育内容のさらなる充実化	1-2-①	「知と知の融合」、「学際融合」や「社会と知の統合」科目の充実のためのDouble Wing Academic Architecture構想の定着化	田中敏宏理事	教育・学生支援部 国際共創大学院支援事務室	○大学院等高度副プログラム/大学院副専攻プログラムなどのDWAAへの定着化 大学院等高度副プログラム/大学院副専攻プログラムにおいて、「知と知の融合」と「社会と知の統合」を目的とする部局が提供する教育プログラムの整理統合を促進する ○卓越大学院プログラム、リーディングプログラム及び後継プログラムの安定的な運営 (1)リーディングプログラム 自主財源による安定的運営 (2)卓越大学院プログラム 既存プログラムの自主財源による部分的支援を実施する (3)理工情報系オーナー大学院プログラム プログラム履修者数などの継続的なモニタリングを実施する (4)人文社会科学系オーナー大学院プログラム プログラム構築に向けて人文社会科学系の部局と連携する ○部局独自のDWAA系プログラムの拡充 各部局が独自のDWAA系プログラムを企画・展開できるようにするため、要件単位数を少なめに設定した 新たな枠組「高度教養モジュール（仮称）」を構築する
		1-2-②	数理科学・データ科学・情報科学教育の強化と全学体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	○数理・データ情報科学教育の全学体制の構築 数理・データ科学教育研究センターを中心に、全学教育推進機構等と連携し「数理科学・データ科学・情報科学教育連携組織」体制の整備を進め、全学共通教育における数理・データ情報教育を推進する。 ○数理科学・データ科学・情報科学教育の推進 高度な情報化社会の創造に資する数理科学・データ科学・情報科学に関するリテラシーを身に付けた人材の育成を目的として、文理を問わず全学の部局において、数理科学・データ科学・情報科学教育の充実化を図るために、共通教育の情報教育科目を中心に、e-learning教材の開発、改良を常時進める

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		1-2-③	人文社会科学系教育リソースの全学的活用による横断型教育体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 国際共創大学院支援事務室	○人文社会科学系組織の教育プログラムの体系化の促進 「人文社会科学系オナー大学院プログラム」について、令和6年度からのプログラム提供に向け、人文社会科学に関係する部局が主体となって、プログラムの構築と実施・運営体制を整備する ○大学院横断型教育組織との連携体制構築 ・国際共創大学院学位プログラム推進機構を中心に、大阪大学全体の異分野横断型教育体制の充実を図るとともに、博士後期課程学生への経済支援などのプログラムの運営にも寄与する ・国際共創大学院学位プログラム推進機構を核として、C0デザインセンター、社会ソリューションイニシアティブ（SSI）、社会技術共創研究センター（ELSI）、グローバル日本学教育研究拠点等の学際融合系の教育プログラムを担う組織の連携関係強化について検討する
		1-2-④	健康・スポーツ科学教育研究連携体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	健康・スポーツ教育の在り方検討ワーキンググループを中心に、学内の健康・スポーツ科学に関わる教育・研究に関する様々な事業を一元的に推進する学内組織の整備に向けた検討を行い、令和6年度に「グローバル健康・スポーツ科学教育研究環（仮称）」を構築する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
1-3.	学外の様々なステークホルダーとの連携を活用した人材育成	1-3-①	国際連携を軸にした国際交流教育プログラムの拡充	田中（学）理事、山本理事	国際部国際学生交流課	【1-3-①-1】 ・学部英語コースを人間科学部、理学部以外にも導入する準備を行う。 ・グローバルイニシアティブ機構、インターナショナルカレッジ、スチューデント・ライフサイクルサポートセンター（SLiCS）等の学内組織の連携やオンラインの活用により、海外のトップクラスの進学校をターゲットとした広報・入試の効率化と充実化を図る。 ・インターナショナルカレッジ及び日本語日本文化教育センターの体制強化に向けた検討・準備を進める。 ・企業奨学金の拡充や企業への宣伝活動に加え、インターンシップの積極的な参加を促すなどの方法により国内就職状況の改善を図る。 【1-3-①-2】 ・大学院英語コースの拡充に向けた現状分析を行う。 ・ダブル・ディグリー・プログラムの拡充、修士博士一貫プログラムの拡充により、大学院英語コースへの進学率の向上を図る。 ・MOOCsコンテンツやオンライン講義用設備の充実化などにより、オンライン教育環境の整備を進める。 ・ASEANキャンパスやグローバルナレッジパートナー（GKP）との連携を活かした国際交流教育プログラムの拡充に取り組む。
		1-3-②	インターンシップ・オン・キャンパスプログラムの全学的展開ならびに企業・大学相互メリット型リカレント教育体制の構築	田中敏宏理事	教育・学生支援部 教育企画課	○共同研究講座及び協働研究所を活用したインターンシップ・オン・キャンパスプログラムの全学展開ならびに新たなインターンシップ教育プログラムの構築に向けた検討 ・インターンシップ・オン・キャンパスにおける課題検討開始と全学展開への施策の立案と運営体制の確立に向けた検討（R4年度からの継続） ○最先端研究を行う企業等研究者の博士号取得体制の構築ならびに社会人教育プログラムの支援体制の整備 ・協働研究所等を有する企業からの若手研究者の受入れ体制、同研究者の博士号取得体制の構築に向けた検討 ○リカレント・リスキリング教育の整備推進（エマージングサイエンスデザインR3センターとの連携等）

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
2-1.	学術機関の根幹となる多様な基礎研究の実践	2-1-①	全ての研究者が知的好奇心・探求心に基づく基礎研究を持続的に実施可能とする活動基盤の拡充	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-1-①-1 外部資金及び各賞の公募情報の研究者への周知 応募数・採択数増加を目指しての、科研費等外部資金及び特別研究員の学内説明会、申請書書き方セミナーの実施 本部URAと部局ネットワークとの連携、事務部門との情報共有 2-1-①-2 科研費等外部資金の採択数増加を目指しての科研費相談員制度、模擬面接の実施 採択された特別研究員申請書の学内開示による作成支援 2-1-①-3 学内予算による国際研究支援事業の実施 2-1-①-4 大学院生に対する、特別研究員採用を目指しての学内説明会及び申請書書き方セミナーによる、経済面での研究環境支援の実施 英語論文投稿支援事業などの支援の実施 2-1-①-5 学術研究の深化を図るため、他大学等、産業界等との組織的な連携や大学の枠を越えた共同利用・共同研究を推進 研究所・センター間の連携に向けた施策の実施 プロジェクトに関する積極的な概算要求
		2-1-②	研究資料、学術情報基盤やリポジトリを含む各種デジタル・リソースの充実化	尾上理事	附属図書館	2-1-②-1 ・利用状況調査に基づくデジタル・リソースの整備 ・電子ジャーナル購読契約の検討 ・電子ブック等の選定方針について検討 ・大阪大学の所蔵する人文系の貴重資料電子化公開を重点的に推進 2-1-②-2 ・附属図書館将来計画の確定 ・館内WG（資料管理WG）で令和4年度に抽出された課題の対応計画策定 ・館内WG（資料管理WG）での所蔵資料デジタル化対象検討 ・新しい大学図書館に求められる人材育成計画の策定

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		2-1-③	学内に偏在する先端的研究・実験機器の可用性向上	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-1-③-1 研究設備・機器の共用やこれに関わる研究支援に関する全学統括組織としての役割を担うコアファシリティ機構を設置し、全学レベルでコアファシリティ化を推進 小規模データ集約配信システム・ONION・学認RDMなどの活用支援など、データ利活用・研究DX支援体制の構築 共用対象設備・機器の拡大及び共用プラットフォームの利便性向上による共用設備・機器の「見える化」・「オープン化」・「拡大」の推進 2-1-③-2 分野横断機器利用支援チームによる高度な技術相談・分析支援や課題解決ソリューション提供等による高度な研究支援実施
		2-1-④	安心して研究に打ち込める研究環境安全管理、安全保障輸出管理体制の強化	尾上理事	研究推進部研究推進課	2-1-④-1 安全保障輸出管理対応に関するマネジメント体制の構築 講習会等の受講状況を検証し、内容を充実化 研究インテグリティに関する体制の構築 人を対象とする生命科学・医学系研究等に関する体制整備として専任の教員を雇用 2-1-④-2 遺伝子システムの改修（DBサーバの変更）と研究環境安全管理等のシステム導入に係る検討
		2-1-⑤	社会の信頼と負託に応える高い倫理観を養うFDの徹底	尾上理事	研究推進部研究推進課	・公正研究推進協会（APRIN）を活用した全学的なe-learningの推奨と拡大 ・論文剽窃チェックツール「iThenticate」を引き続き全学で導入 ・海外動向の調査と、本学の研究倫理教育への反映

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
2-2.	世界レベルで卓越した研究拠点形成と新たな研究領域の開拓	2-2-①	重点研究分野の国際的プレゼンス向上のための研究推進支援体制の強化と重点投資	尾上理事	研究推進部研究企画課	新たに世界最先端研究機構の部門に位置付けたヒューマン・メタバース疾患研究拠点に対するバックアップにより、同拠点における研究を着実に進める。 同拠点に続く世界トップレベル研究拠点への発展が将来的に期待できる分野を吟味し、重点的なリソース投入を行う。
		2-2-②	卓越研究分野が先導する部局横断型大型研究プロジェクトの醸成と省庁・FAへの提案支援による外部資金獲得体制強化	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-2-②-1 各領域の研究の進捗状況の確認・評価を継続して行い、顕在化する問題点等を把握し適切な強化施策の実施に繋げる 部局を超えた学際研究の見える化や、それに伴う新学術基盤の創成の実施による異分野融合型研究の基盤強化を引き続き実施するとともに、新しい分野融合型研究プロジェクトをインキュベートする 2-2-②-2 本部URAによる重点領域・先導的学際研究機構（OTRI）等への支援 先導的学際研究機構（OTRI）等の府省・競争的研究資金配分期間（FA）への提案支援 ムーンショット、フォトニクス等の既存の課題に対する大型及び部局横断型研究プロジェクト立ち上げ・実施支援 世界トップレベル研究拠点（WPI）や共創の場形成支援（COI-NEXT）等の大型研究拠点化を目指す領域に対する支援
		2-2-③	次世代AI技術によるデータ駆動型研究の加速	尾上理事	研究推進部研究機構振興課	2-2-③-1 データビリティ研究用基盤のプロトタイプシステムを拡大させる。 学際研究プロジェクトの共創支援、データ・AI駆動型学際共創研究を拡大し、データ駆動型研究の新規プロジェクトを5件創設する。 2-2-③-2 社会共創インタラクションハブを構築する。 2-2-③-3 データ駆動型研究を推進し、社会実装に向けて、共同研究・受託研究を10件実施する。また、データ流通基盤の構築を推進し、PLRデータ（被験者実験工数累計）を延べ30,500件蓄積する。さらに、うめきた2期、関西万博でのPLRデータの収集に向けて検討を続ける。
		2-2-④	研究環境整備、学際融合機会の創出、グローバル化の奨励など若手研究者に対する積極的な支援	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-2-④-1 現在の企業等からの支援に基づく若手研究者の育成を継続して実施するとともに、新たな支援先の開拓を行い、さらなる若手研究者の雇用、育成を実施する 2-2-④-2 連携機会創出支援の継続

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		2-2-⑤	人文社会科学分野のポテンシャルを活かした新領域の開拓と分野包括的な研究戦略の立案	福田理事、尾上理事	研究推進部研究企画課	2-2-⑤-1 学際的・国際的・社会学連携的な教育プログラムを企画運営 学内外・国内外の研究者・研究機関とのネットワークの形成・維持・管理、アウトリーチ活動の展開 2-2-⑤-2 研究会の開催 人文学研究科の学生に対するDH教育（デジタルヒューマニティーズ）の実施 2-2-⑤-3 方向性を踏まえた組織構想の検討 SSIプロジェクトの実施 ELSI型研究プロジェクト3件を実施する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
2-3.	新しい社会創造に貢献するOUエコシステムの広範な浸透・充実化	2-3-① (感染症総合教育研究拠点)	「社会との共創」への接続を意識し、「+ELSI」、「新興感染症」、「PLR (Personal Life Records)」、「いのち」をキーワードに、SDGsをはじめとする社会課題の解決に向けた学際研究を実施するための基盤構築	金田理事	感染症総合教育研究拠点事務局	● 令和4年度から開始している分野横断型「感染症」研究促進プロジェクトを人文社会科学分野も対象とするなど拡大。学内公募を経て審査委員会による審査のうえで採択し、合計45件以上の研究課題を進行させる。 ● 上記の研究促進プログラムの進行とさらなる拡大により研究を加速させ、感染症学、免疫学に関する研究分野において研究論文を10件以上発表する。 ● 令和4年度途中から開始したCiDER-DP/PDPなどのツールも活用するなどして、経済学、心理学、数理、社会技術分野において研究論文やリポートを15件以上発表する。 ● 医療人材育成のための教育コンテンツを新たに20個以上作成し、令和4年度から運用を開始している感染症教育E-learningサイトを拡充させる（毎月、随時更新していく）。 ● 医療従事者等向けのオンラインセミナーや研修等を自治体や医師会、他の研究機関、医療従事者団体などと連携して実施することで、年間のべ10000人以上に受講させる。 ● 一般市民向けのシンポジウム開催について、これまで3回実施した際のアンケート結果なども踏まえ、メディアと連携して企画し（上半期）、東京にて開催するなど、新たな開催形態により実施する（下半期）。
		2-3-① (研究企画課)	「社会との共創」への接続を意識し、「+ELSI」、「新興感染症」、「PLR (Personal Life Records)」、「いのち」をキーワードに、SDGsをはじめとする社会課題の解決に向けた学際研究を実施するための基盤構築	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-3-①-1 社会との共創を意識させるためのFDの実施 SSIプロジェクトの実施 ELSI型研究プロジェクト3件を実施する。 社会的課題解決志向研究の公表 2-3-①-2 ELSIの解決に向けた学内外のマッチングを10件実施する。 産業界や行政機関等への提言を、研究や実践の蓄積をもとに実施し、ステークホルダーをつなぐ場としてワークショップやシンポジウム等を10回実施する。 公共圏における科学技術・教育研究拠点（STiPS）事業の教育プログラムと連携しELSI人材の育成に貢献する。 ELSI教材を活用してセンター独自の教育プログラムを検討し、ELSI人材育成科目を2コース実施する。

令和5年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		2-3-②	グローバルな社会課題、未踏課題等への「挑戦」を奨励・支援する寛容な大学・部局運営	尾上理事	研究推進部研究企画課	2-3-②-1 挑戦を支援する学内助成事業（英語論文投稿支援・異分野融合支援、国際共同研究支援、海外渡航支援等）の継続 2-3-②-2 ア）研究力に関する部局評価の方法の検討、研究力強化に資する取組に関するポリシー・ガイドラインの検討及び学内外のグッドプラクティスの収集整理。 イ）本部実施の研究助成事業及び部局支援施策（OUマスタープラン加速事業や戦略的ポスト配分等）の実施におけるアの成果の反映

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-1.	社会との共創活動の推進による「知」「人材」「資金」の好循環拡大	3-1-①	産学共創の拡大と大型共同研究の拡充	金田理事	共創推進部共創企画課	(1) 企業等との共同研究の更なる拡充に向けた産学共創推進活動の強化 産学連携の拡充のため以下の事項に取り組む。 ・外部問い合わせ窓口等で企業からの問合せに適切に対応し、技術相談などを通じて共同研究につなげる。 ・技術シーズ集を作成、共創機構ホームページへの掲載を行う。 ・協働研究所・共同研究講座インタビュー記事の作成・掲載など、共創機構ホームページのコンテンツのアップデートを進め、さらなるアクセス増を目指す。 ・イノベーション・ジャパンや新技術説明会などで技術シーズを紹介する。 ・地域経済団体などと連携し、地元企業との連携を強化する。 また、共同研究契約対応や関連制度に関する改善として以下の事項に取り組む。 ・共同研究の案件数増加に向け、現状を詳細に把握し対策方針を得ることを目的に、共同研究のデータ分析を実施する。コロナ禍の影響はあるものの、共同研究費受入額104億円を目指す。 ・残存する手作業による業務の効率化を進めるため、さらなる自動化、システム化を検討する。 ・学術貢献費の導入数増加（R4年度を上回る件数を目標）に対し研究者への周知、本格導入後の状況・各部署の傾向等の把握を継続する。 01機構（オープンイノベーション機構）では、引き続き、事業化検討ステージまでを担う能力を備えた総合的マネジメントを実施するとともに、国際的なビジネスマッチングイベントに参加し、情報収集や共同研究等の提案を行う。さらに、令和5年度事業終了後の機構のあり方について具体的に整理を行い体制整備を行う。 (2) 共同研究講座・協働研究所をはじめとした大阪大学方式の組織間連携の拡充 ・開設した共同研究講座（部門）・協働研究所における連携活動を、コミュニケーションツール等を活用しながら、さらなる活性化、深化に繋げる。 ・共創機構と部局等との連携によるマッチング等（(1)の産学連携の拡充の機会）を通じて、共同研究講座（部門）・協働研究所の拡充を図る。 ・多面的・包括的な組織対組織の連携をさらに推進するために、包括連携に係る制度の明確化などの検討を進める。 (3) 社会課題の解決、新たな社会価値創造を目指した産学共創の拡大 令和4年度から新制度に移行した未来社会共創コンソーシアムについて、相談企業のニーズを踏まえた柔軟な運用を図りつつ、必要に応じて制度に反映させる。 また制度周知のため、地域経済団体等との連携や企業を対象としたイベント開催等、方法論の検討を継続して進める。 20～30年後の将来の地球規模の課題を深く探索しその解決を目指した異業種の複数企業との連携においては、解決すべき社会課題の探索活動を行うとともに、社会課題を解決するための具体的な産学連携プロジェクトの形成を行う。 (4) 産学共創に関する他大学との連携 ・本学に比較的近い大学等を対象として産学連携支援組織同士の連携を開始する。令和5年度は2大学程度を目標に、双方の大学が取り組む産学共創活動の好事例の紹介を行う連携推進会議を立ち上げる。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		3-1-②	知的財産強化と安定的な知財収入の確保	金田理事	共創推進部共創企画課	(1) シーズ発掘強化と「強い特許」の拡充 1. 有望シーズをスクリーニングし、研究者及び関連部署と技術移転シナリオを作成する。 2. 技術移転シナリオを実現するための特許強化、外国出願を実施する。 (2) 技術移転活動の強化による知財収入の拡充[知的財産等のライセンス収入：5億円] 1. コア技術の特許を大学発ベンチャーに実施許諾等を行い支援する。 特に、特許の実施料収入に加え、臨床研究データ利用許諾対価、研究成果有体物移転・使用対価によるライセンス収入の増額に取り組む。 2. 特許実施料の対価として取得した株式・新株予約権を売却することで知財収益化するスキームを構築、定着化する。
		3-1-③	大学発ベンチャーの創出・育成	金田理事	共創推進部共創企画課	(1) プレ・インキュベーション支援のエコシステム構築による大学発ベンチャーの継続的な創出・育成[ベンチャー企業創出件数：7件] ・「シーズ育成グラント」「起業支援グラント」を本格運用し、「大学発新産業創出プログラム」(KSAC-START事業)との連携強化。 ・阪大発ベンチャーの海外展開及び経営者候補育成に向けた海外拠点の基盤を整備。 (2) 関西圏における連携ネットワークの構築による事業化促進と人材育成 ・CXO人材紹介ベンチャーとの連携による起業人材探索の仕組みを関西圏の起業人材バンク「ECP-KANSAI」に連携し拡充。 ・「関西スタートアップインキュベーションプログラム「起動」」の活用も含め、大学研究シーズの活用積極的な企業の開拓により、阪大発ベンチャーの価値向上を推進。 (3) イノベーション人材輩出に向けたアントレプレナーシップ教育の推進 ・卓越大学院や各部局の人材育成プログラム等との学内連携強化でアントレプレナーシップ教育参加者の増加を推進。 ・フィールドワークプログラムの拡充、及びイントラプレナー教育の新設により、アントレプレナーシップ教育の拡充。 ・シリコンバレーを拠点としたグローバル人材育成および海外インターンシップを試行。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-2.	社会課題から画期的な教育・研究成果を生み出す機能の強化	3-2-①	社会のステークホルダーと協働したSDGs実現のための基盤整備	福田理事	総務部総務課	・本部SDGs推進委員会での検討事項の実装（令和5年度はプロジェクト化の充実に取り組む）及び、部局でのSDGs推進体制の構築（各部局等のSDGs担当教員による学内担当者ネットワークの構築等を検討） ・産業界のみならず市民等、様々なステークホルダーが参画する共創型かつ従来にない分野群が参画する横断型（理工情報系や医歯薬生命系の参画）のSDGs関連プロジェクトの実施（2024年度までに、SSI等既存組織によるSDGsを意識した新規8件のプロジェクトの実施） ・COI-NEXT(育成型)1件をSSI基幹プロジェクトとして支援及び横断型SDGs関連プロジェクトへの発展を目指した研究クラスター形成促進 ・SDGsに関する広報コンテンツの充実化に向けて、シンポジウム等を実施
		3-2-②	新たな課題を社会から基礎研究に組織的にフィードバックする機能の確立と地域社会との共創による社会課題解決	金田理事	共創推進部共創企画課	令和4年度の共創活動を引き続き実施する他、令和4年度の活動を具体事例として包括連携協定等を締結している自治体での横展開を目指し、地域課題の収集、分析、研究現場へのフィードバック機能を強化する。また、今後の地域の共創活動を一層推進するため、産学共創大型拠点の地域連携に係る活動を支援（研究者と地域とのネットワーキングや地域課題と研究のマッチング等）する。 更に、卓越した研究、その研究成果の事業化及び大学周辺の街づくりへの貢献等のため、地域連携をより一層加速する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-3.	附属病院における革新的医療の開発・提供と安定的経営	3-3-① (医学部附属病院)	社会との接点である附属病院の機能を活かした先進的医療の開発・導入	金田理事	医学部附属病院	・最新の法令、トピック等を反映させたe-learningの提供、講習会・セミナーの実施及びその検証を行う。 ・RWD（リアルワールドデータ）利活用のため、 1)令和4年度に定めた方向性をもとに、DWH（データウェアハウス）として用意している11個のテーブルから、さらに自然言語処理された画像レポートに関するテーブルを1つ増やすことで、データベースの価値を高める。 2)ニーズ調査や共同研究を継続して行い、得られたニーズはデータカタログ等に反映する。 ・遺伝子治療の橋渡し研究のためのインフラ整備に向けて、製造及び製造工程開発に必要な機器類を含む施設整備に着手する。 1)臨床試験に用いる遺伝子治療製剤の製造・品質評価を担える高度人材育成に着手する。 2)GMP準拠製造施設のインフラ整備に着手する。
		3-3-① (歯学部附属病院)	社会との接点である附属病院の機能を活かした先進的医療の開発・導入	金田理事	歯学部附属病院	I：現在運用中のSMSサービス提供Webサイトに予約確認サービス等を統合しサービス開始。 II：歯科再生・再生医療支援体制の強化、歯科再生・再建医療に関わる臨床研究・試験の推進、歯科分野の医療機器メーカーや製薬等に関する企業等との産学連携の推進、先進医療等の承認。 III：オーラルDXチェアユニットを用いた歯科医師等の診療状態の記録・蓄積を行い、ビッグデータの持続可能な管理運用体制の構築。 IV：患者バイオリソースデータベースの集積と管理。バイオリソースデータとバイオリソースを用いた研究を支援。患者デジタルイメージ・データベースの集積と管理。特に、口腔の疾患に関連した臨床画像情報（CT、2次元画像、3次元画像）のデータベース化を進め、円滑な利活用を可能とする管理体制の構築。口腔の疾患に関連した遺伝子等に関わる情報を安全に管理する体制の整備。
		3-3-② (医学部附属病院1：統合診療棟)	附属病院の経営への本部の協力の強化	金田理事	医学部附属病院	統合診療棟整備：引き続き構造躯体工事を行い、内外装仕上・設備工事を行う 経営基盤の強化：病床稼働率、新入院患者数及び日曜入院患者数を新型コロナウイルス流行以前の水準に戻す。
		3-3-② (医学部附属病院2：人事制度)	附属病院の経営への本部の協力の強化	金田理事	医学部附属病院	・臨床工学技士の処遇改善（臨床工学技士業務従事手当の創設） ・看護職員の処遇改善（給与格付けの見直し） ・ドクターヘリ搭乗手当の支給対象拡大

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		3-3-② (医学部附属 病院3：働き 方改革)	附属病院の経営への本部の 協力の強化	金田理事	医学部附属病院	・医師労働時間短縮計画の作成及び評価結果取得、大阪府への特例水準指定申請、大阪府からの特例水準指定受理 ・医師事務作業補助者、看護補助者等の増員 ・特定行為研修の推進（開講する特定行為区分及び領域パッケージ研修の追加） ・病院事務部の強化（医事業務の体制強化等の検討）
		3-3-② (歯学部附属 病院)	附属病院の経営への本部の 協力の強化	金田理事	歯学部附属病院	◆安定的な病院収入の確保 ・収入を増加し、支出を減少させることで安定的な病院収入の確保 ◆病院再開発の企画・立案 ・将来構想・再開発コンセプトの策定（基軸となる方針の確定） ◆医療機器の計画的な更新 ・高額かつ大型の機器設備について計画的な更新を実施 ◆働き方改革に対応した取り組み ・多様な働き方の推進

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-4.	大学の戦略に基づいた最適な資源配分スキームの構築と部局を後押しする活動支援	3-4-①	組織点検・評価スキームの構築・高度化	田中敏宏理事	総務部総務課	○組織点検制度の着実な運用 ・活動年度の半期終了後の進捗確認（10月～12月）及び次年度の計画の再確認を実施するとともに、必要に応じて各組織の計画等について改善・軌道修正する。 ○現行制度の再構築に向けた検討 ・現行の全学的な支援機能を有する組織の点検制度について振り返り（上半期まで）、大学全体のマネジメント・システムの強化に関する総合的な議論を踏まえ、制度見直しの方向性を示す。
		3-4-②	多様な財源を活用した資源配分機能の強化	豊岡理事	財務部財務課	・多様な財源を活用した裁量的経営資源により重点投資するため、総長裁量経費44億円を拠出する。 ・OUマスタープラン実現加速事業への予算配分を行い、さらに、次年度開始事業の審査も実施する。 ・令和4年度に開始した財務会計システムと人事給与システムの連携により、総人件費（常勤教職員及び非常勤教職員に係る所属、役職、人数、雇用財源、コスト）を把握する。
		3-4-③	固定資産の全学的マネジメントの強化	豊岡理事	財務部資産管理課	1. 令和4年度に続き、各キャンパスの土地、建物等の現況調査及び分析に取り組むとともに、令和4年度の調査、分析結果も参考に、土地の利活用・有効活用の方策について検討し、将来の固定資産マネジメント体制の構築に向けた検討を進める。 2. 令和4年度に設置した「教育、研究、医基盤設備更新計画策定WG」での議論を加速させる。なお、教育設備については、更新の時期まで盛り込んだ具体的な計画の策定を目指す。 3. 資産貸付料の点検を行い、全学的マネジメントの一環として資産貸付料金を定めている資産貸付取扱要領の見直し及び改正を検討する。 4. 令和4年度に続き、本部事務機構の各課が管理する土地・建物について、建物維持管理業務の一元化に向けた体制の構築を進める。 5. ハウジング施設（学寮・教職員宿舎・宿泊施設）の利便性の向上のため規定の見直しを行う。
		3-4-④	大学の戦略に基づいた人員の適切な確保	水島理事、豊岡理事	総務部人事課	・総人件費の見える化を実現するための手法の確立 ・人員管理に係る新ルールの策定、周知

令和5年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-5.	大学の戦略を実現する財務基盤の強化	3-5-①	中期財政計画の策定	豊岡理事	財務部財務課	・令和5年度OUアクションプランの策定に合わせてOUアクションプラン予算の調査を実施し、OUマスタープランに係る第4期中期目標期間収支見込を更新する。 ・令和4年度に策定した中期財政計画を更新する。 ・作成した財政計画の活用方針を決定し、各種施策検討時や令和6年度予算編成の参考資料として活用する。
		3-5-②	教育研究活動を支える財源の確保	豊岡理事	財務部財務課	・令和4年度に検討した外部資金情報の活用方法を実行に移し、実行に伴って見えてくる問題点を整理し、よりよい仕組みになるよう改善する。 ・雑収入について、令和4年度に実施した【オープンラボ利用料収入】、【宿泊施設利用料収入】、【公開講座収入】の既存単価の見直しに引き続き、【学寮・教職員宿舍収入】、【構内入構料収入】、【保育園利用収入】を対象に実態を確認し、見直しを実施する。 ・資金運用の運用金額を増額するとともに、運用方針で定める目標収益率を達成するため、必要に応じて基本ポートフォリオの見直しを行い、新たな運用を開始する。
		3-5-③	教育研究コストの見える化	豊岡理事	財務部財務課	・部局の財務情報（収入と支出）の整理・分析方法の点検・改善。 ・ステークホルダーや社会のニーズに応じた財務情報の多様な媒体（HPや広報誌）による発信。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		3-5-④	未来基金の拡大	金田理事	共創推進部共創企画課	(1) 卒業生・保護者・企業、地域等のステークホルダーとの関係強化による寄附金増[未来基金受入額：5億円] 未来基金の拡大に向けて、これまでの蓄積から得られたデータを分析し活用するとともに、対面による渉外活動を活発に行うことで、本学ステークホルダーや篤志家との関係構築、永続的な寄附獲得への発展を図る。また、卒業生を中心に、企業、地域への働きかけも含め、共創機構を中心に各部局等と連携した募金活動を強化する。 (2) 卒業生(元教職員を含む)との持続的関係構築と卒業生間のコミュニティ醸成 重層的な卒業生コミュニティを醸成し、大学と卒業生、さらには卒業生間のつながりを広げていくため、オンラインで交流する場を全世代を対象に拡大し、部局や世代を超えたネットワーク構築を促進する。また、構築した卒業生DB・マイハンダイアプリ(卒業生版)を元に、大阪大学同窓会連合会と協力しながら、協力可能な小規模の同窓生コミュニティから試行範囲を順次拡大し、これまでの生涯メールアドレスに加えて大学のSNSを通じた繋がりを構築することで、本学に関する情報を発信するとともに、コンタクト可能な卒業生等を60,000人に増やす。 また、大学と、大学を取り巻く社会の状況や課題を、大学役員が産業界・金融界のトップ層と議論し、今後の共創活動の推進、大学の将来構想に生かす『大阪大学と経済界の「連携の場」』を立ち上げ、継続的な連携を行う。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-6.	ガバナンス体制の強化とコンプライアンス遵守・リスク管理の徹底	3-6-① (質保証推進室)	持続的成長のための自律的経営に向けた運営・事務体制の強化及び質保証システム等の整備・充実	福田理事	企画部質保証推進室	・令和4年度に策定した好循環の仕組みについて、学内の理解を深めるために、ヒアリングまたは意見交換を実施するなど各部局との対話を促進する。 ・外部（ステークホルダー）の意見を踏まえて自己点検・評価を実施し、改善まで結びつけることができる好循環サイクルを推進する。
		3-6-① (総務課)	持続的成長のための自律的経営に向けた運営・事務体制の強化及び質保証システム等の整備・充実	田中敏宏理事	総務部総務課	・「大阪大学における事務組織の改革に向けた基本方針」に則り、本学の将来構想を踏まえつつ、事務組織体制の高度化・再構築の検討を進展させ、可能なものから順次実行に移す。 ・戦略会議の権限・機能の見直しに併せて活動支援体制の強化計画を立案する（新たな戦略会議構想案の策定等及び事務/URA体制の立案等）。 ・学内構成員への情報共有の取組を継続的に実施するとともに、改善策を立案する（情報伝達体制の強化、情報共有ツール・各種会議の更なる活用等）。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		3-6-②	安全管理体制の強化	豊岡理事	総務部安全衛生管理室	1. 防災体制の強化 (安否確認システム) ▶令和5年度中に新システムの運用を開始する。また、学生・教職員への定着を推進するため、同システムを用いた安否確認訓練を実施する。 (非常時備蓄) ▶有事の際の本部と部局における備蓄・避難場所の整備に関する課題を抽出し、運用の改善に繋げる。 (防災マニュアル) ▶防災マニュアルの課題を抽出する作業を継続する。抽出した課題を重要度に応じて分類し、優先度の高いものから対応策を協議し、必要に応じてマニュアルを改訂する。 2. 安全安心で快適なキャンパス環境の推進 (防犯カメラ) ▶キャンパスの防犯機能強化のため、必要箇所に防犯カメラを新設する。また、年度途中で不具合の生じた機器に関しては単純に更新するのではなく、当該場所における設置効果を改めて検討し、廃止・修理・更新を判断する。 (スモークフリーキャンパス) ▶卒煙ブースの適切な維持管理とともに、禁煙に関する講演会や喫煙・受動喫煙の健康影響による情報提供を行う。 3. 安全衛生教育の推進 (安全衛生教育) ▶学生・教職員が受講しやすくなるよう、各種講習会のオンライン配信を継続するとともに、配信期間の通年化やライブ会場の複数設置等により、受講希望者の参加しやすさを向上させ、受講者数を増加させる(令和4年度比)。 ▶各種講習会の体系化に着手する。具体的には、安全衛生の実務担当者を対象とする業務説明会のコンテンツや開催方法の見直しに着手する。 ▶安全衛生管理部作成の教材「安全の手引き」の配付方法見直しを検討する。
		3-6-③	ハラスメント防止の全学徹底	水島理事	総務部ハラスメント対策事務室	・e-ラーニングを用いたハラスメント防止に関する研修を実施し、受講率100%を目指し、教職員へ受講の周知を図る。 ・管理者向け、学生向けにハラスメント防止に関する研修会を開催する。また各部局に対し、ハラスメント防止に関する研修会の開催を呼びかけ、意識啓発を図る。 ・ハラスメント相談室と各部局の相談窓口、部局相談員との連携体制の構築を図る。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		3-6-④	コンプライアンス遵守・リスク管理体制の強化	田中敏宏理事	総務部総務課	<法務体制の強化> ・令和4年度に策定した「法務・コンプライアンス体制の機能強化に関する基本方針」及び令和4年度に実施した法務相談体制の充実に関する検証を踏まえ、法務室での相談機能の強化等を引き続き検討し、必要に応じて体制整備を行うとともに、法務室及びその機能・活動の周知を継続して実施する。 <コンプライアンス体制（学外通報制度を含む）の強化> ・令和4年度に策定した基本方針のもと、コンプライアンス担当各部署からの意見を踏まえ、法的リスク事案の情報集約、相談窓口等の組織・人員・体制等の適正化、法務・コンプライアンスに関係する組織の見直し等について検討を行う。 <ガバナンス・コードへの対応> ・引き続きガバナンス・コードの全原則に適合していることを確認するとともに、令和4年度に経営協議会及び監事から指摘のあった意見を中心に改善を図り、大学としての機能をさらに高める。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-7.	先進的な戦略・取組の実行を担う事務組織の高度化	3-7-①	事務組織体制の強化	豊岡理事	総務部総務課	・「大阪大学における事務組織の改革に向けた基本方針」に則り、大学の戦略的課題等に対応した事務組織体制の高度化・再構築の検討を進展させ、可能なものから順次実行に移す。 ・研究力強化の取組に併せて活動支援体制の強化計画の立案（新たな戦略会議構想案の策定等及び事務/URA体制の立案等）
		3-7-②	事務職員の戦略的な採用・育成・配置	豊岡理事	総務部人事課	事務職員人事制度基本方針等に基づいて、新たなキャリアパス制度を順次実施していき、専門職として活用し得るポストを少なくとも5ポスト選定し、当該ポストを戦略的に活用する。また、採用、研修、人事異動、登用試験、評価など一体的な改善に努め、事務職員の戦略的な採用・育成・配置を進める。特に職員のキャリアデザインに関する意識を高めるための研修を充実させ、キャリアパスへの理解を深める。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
3-8.	安全かつ快適で持続可能なキャンパスの整備促進	3-8-①	老朽施設の計画的解消と長寿命化・エネルギー使用量及び温室効果ガス排出量の削減	田中学理事	施設部企画課	◇老朽施設の計画的解消 ・空調改修やエレベーター改修、防水改修などの老朽化対策事業の着実な実施 ◇施設の調査・点検・現状把握と長期修繕計画 ・施設の健全性に関する調査、点検（建築基準法12条定期調査、部位別劣化状況調査等）を実施し、施設の状況を把握する。 ・施設カルテ（施設台帳）を作成し、長期修繕計画を立案する。 ◇パリ協定に基づくエネルギー量・温室効果ガス排出量の削減 ・全学的なエネルギーマネジメント（空調の集中コントローラーの活用等）の実施 ・省エネ工事（施設老朽化対策による空調の改修工事等）の計画及び実施 ・カーボンニュートラルに向けた人材育成のための講義（全学共通教育科目） ・新築建物等に対するZEBの推進（感染症総合教育研究拠点等）
		3-8-②	快適で魅力あるキャンパス空間の創造	田中学理事	施設部企画課	◇キャンパスマスタープラン等の改定に向けた対応 ・キャンパスマスタープランの改定作業 ◇国費・多様な財源による整備、キャンパスコモン等の整備 ・施設整備（新築・改修）の実施 ・リーディングプロジェクトの実施（大学入試で使用する講義棟のトイレの老朽改善） ◇構内案内地図サインの更新 ・構内案内地図サインの老朽化状況等の点検・更新の予算要求 ◇キャンパスランドスケープの構築 ・豊中キャンパスにて、地域住民と連携し竹林の維持管理活動の実施 ◇入構ゲートの更新に向けた対応 ・新入構ゲートのゲートシステム・実施スケジュール等の検討

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		3-8-③	土地・建物等の教育研究環境の充実	豊岡理事	財務部資産管理課	1. 令和4年度に続き、効率的、効果的な土地・建物等資産活用の推進に向けた調査、土地・建物等の現況調査を継続する。 2. 部局提案型スペース創出支援事業の実施部局の未利用スペースの有効活用への支援を行うとともに、部局による全学的な用途に供するスペースの運営を求めることで、スペースの有効活用および異分野研究者の交流の推進を図る。 3. 豊中共創研究形成拠点の完成に向けて、施設運用面の方針・計画について検討を行う。 4. 吹田アゴラ及び豊中アゴラの建設に向けて、施設運用面の方針・計画について検討を行う。 5. 学寮及び教職員宿舎の充実化を図るための大規模な改装・建替えを検討するにあたり、学寮及び教職員宿舎整備運営事業に係るアドバイザー業務を委託する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
4-1.	ブレンデッド教育を支える学修環境の高度化 (DX in Education) の実現	4-1-①	入学前から在学中、卒業後まで「阪大生」を重要なステークホルダーとしてサポートする基盤の構築	尾上理事	情報推進部情報基盤課	・ 本学が推進するブレンデッド教育における学生のエンゲージメント向上を目的として、4-1-②で開発を進めているラーニングアナリティクス (LA) 基盤で収集した学修データを学生自らに可視化することで学生の主体的な学びを促進する学生向けLAダッシュボードのプロトタイプを構築する。令和5年度は、どの学修データをどのように学生に可視化することが学生の自己調整学習に効果的であるか、プロトタイプを用いて検討を進める。 ・ 学生に寄り添うきめ細やかな支援体制の整備のために、CRM (Customer Relationship Management; 問い合わせの一元管理システム) を用いた学生向けワンストップサービスの導入準備を進める。令和5年度は、CRMの運用体制 (TAの管理、学内関係部署との連絡体制等) を策定する。 ・ 学生の対外的プレゼンス向上のために、学生が自らの学修活動・学修成果を蓄積・公開するためのeポートフォリオシステムの導入に向けた検討を進める。令和5年度は、対象するデータ、学生・教職員の運用を踏まえたeポートフォリオの具体的な仕様設計を進める。
		4-1-②	学修データを収集・利活用するための教育用情報基盤の整備、制度設計、人材養成	尾上理事	情報推進部情報基盤課	・ 学修データに基づいた最適な教育を提供できるよう、本学で運用する学習支援システム・サービスの学修データを収集・蓄積し、分析する環境として、ラーニングアナリティクス (LA) 基盤を構築する。令和5年度は、令和4年度に構築したLA基盤のプロトタイプを検証するとともに、実運用に向けた機能拡張 (認証・アクセス制御機能等) を進める。 ・ 初年次必修の一般情報教育科目「情報社会基礎・情報科学基礎」をはじめとする一部コースを対象に、収集した学習行動データの解析を進め、教員向けダッシュボードの仕様策定とプロトタイプ開発を行う。 ・ LA基盤の運用に向けて、SLiCSセンター・サイバーメディアセンターの関係教職員で教育・学修データ利活用ポリシーの策定に向けたワーキンググループを立ち上げる。令和5年度は、実運用に向けた課題の洗い出し、本学の学修データ利用ポリシーの策定を目指す。
		4-1-③	ブレンデッド教育、オンライン・エンロールメントを支える安心・快適な情報インフラの整備	尾上理事	情報推進部情報基盤課	令和5年度においては、ヘルプデスクを支援するためのサービスの導入など、各種サービスを運営するための体制を引き続き整備する。令和6年度に稼働が開始する次期LMSの調達について、仕様策定及び調達を進めていく (個別取組4-1-③-1)。また、語学学修においては、メディア授業を支援するアプリケーションの導入と効果的な授業実践方法についてのFDを定期的実施し、学内の特に語学教育におけるブレンデッド教育の基礎を築く (同4-1-③-2)。オンライン学力評価については予算要求を含め、引き続きシステムの詳細について検討を進めるとともに、既存の剽窃チェックツールの利用を全学に周知していく (同4-1-③-3)。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
4-2.	研究活動のフルオンライン化を可能とするeResearch (DX in Research) 環境の整備	4-2-①	研究・実験機器の自動化、遠隔化、共用化を支えるプラットフォームの構築	尾上理事	研究推進部研究企画課	4-2-①-1 研究DXやオープンデータ・データ利活用を推進する上での基盤となるセキュアLAN・セキュアネットワークデータ配信システムを学内共用機器拠点に配置・展開 4-2-①-2 オープンデータやデータ利活用の推進のため、学内外のデータシステムとの連携強化による測定データ集約・配信等の推進
		4-2-②	オープンサイエンス（オープンデータ&オープンアクセス）研究環境の強化	尾上理事	情報推進部情報基盤課	4-2-②-1 ・大阪大学研究データポリシーに基づき、データ管理計画（DMP）作成支援、データ管理・公開に関するFD等の実施 ・本申請を実施した研究データ管理基盤(GakuNin RDM)の学内での取扱いやONIONとの連携等の検討 ・研究データ公開試行(ONIONとの連携開始)、研究データの利用促進のためのOUKAの機能改修 4-2-②-2 ・ONIONの利活用支援を通じたONION-2（仮称）に向けたオープンサイエンス関係の技術課題検討 ・ONIONの利活用支援に基づく研究データ集約基盤の事業化の検討 ・ONION拡張に向けたネットワーク棟改修設計、光ファイバー敷設の検討 4-2-②-3 ・民間クラウド、データ活用社会創成プラットフォーム基盤システム（MDX）との連携基盤整備による広域連携環境整備・拡充 ・スーパーコンピュータ「高性能計算・データ分析基盤システム(SQUID)」の運用 ・スーパーコンピュータOCTOPUSの更新計画立案と運用
		4-2-③	学際融合研究、共創活動を加速する、各部署のURA活動を含めた全学的な支援環境の整備	尾上理事	研究推進部研究推進課	4-2-③-1 DXの取組と連携した分析データの収集 研究データ分析による経営判断支援 URA×IRのためのURAディベロップメントの実施

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
4-3.	戦略的な大学経営を支えるDX in Managementの実現	4-3-①	0UDX基本方針に基づく各種システムの導入	尾上理事	情報推進部情報企画課	【定量的指標】 ・特に保護すべき機微情報を保有するシステムへのセキュリティ機構導入100% ・事務用ノートPCにエンドポイントセキュリティ（EDR）機構導入100% 【定性的指標】 ・各種システムの構築と運用体制の整備 *0UID試行開始 *テレワークに対応した事務用ノートPCへのエンドポイント型セキュリティの導入 ・iLPsOU初期機能調査等(全学的に活用可能なマスターデータについての検討を開始するとともに、一部のデータを提供する体制を整える)、個人データに対する名寄せ作業の自動化及び多国籍対応、データ利用ポリシー策定 ・学内IT人材育成
		4-3-②	学生サービスの向上を見据えた教育研究活動支援業務のオンライン効率化	田中敏宏理事、尾上理事	教育・学生支援部教育企画課	○各業務システムの最適化あるいは新システムの導入の検討継続 学生サービス（在学生、卒業生、留学生）の向上に向けたオンライン効率化対象業務の整理とオンライン導入に向けた検討の継続 (1) 学務情報システム 学生サービスのオンライン化の安定稼働に向けた、クラウド移行の仕様策定、調達手続き (2) 学生へのサービスのデジタル化・ネットワーク化 ・証明書コンビニ発行サービス - 導入のための課題整理、情報収集 ・学生証のデジタルID化 - 別途導入が進められている0UIDとの関連を模索しつつ、導入のための課題整理、情報収集
		4-3-③	戦略的資源配分を支えるIR活動の全学展開に向けた環境の整備	尾上理事	企画部経営デザイン課	・執行部等とのコミュニケーションを通じた必要なデータの把握と収集、データ提供 ・進捗管理ツールの稼働、自己点検・評価への活用 ・進捗管理ツールの利用方法の普及 ・部局等での自律的なデータ活用に向けた共通課題の洗い出し、解決方法の検討

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-1.	優秀な留学生の受入れと本学学生の海外派遣を通じたDiversityの向上とグローバル人材の育成	5-1-①	優秀な留学生を戦略的に受入れるための学内外連携体制の整備充実	田中（学）理事、山本理事	国際部国際学生交流課	■5-1-①-1 ・入学から就職まで一貫した支援の充実に資するため、引き続き、既存の日本語プログラム（予備教育、在学生対象）を実施するほか、学生間の交流支援、生活相談、就職支援といった留学生支援を実施する。また、日本語教育を取り入れた就職支援プログラムの実施について検討する。 ■5-1-①-2 ・多様な短期プログラムの実施のため、交流が少ない協定校への交換留学プログラムの参加促進を行うとともに、海外キャンパス等との連携による短期プログラムの構築を引き続き進める。 ・引き続き、各部局から提供科目を収集し、バーチャル留学（受入）を実施する。 ■5-1-①-3 ・多様なリクルート活動を展開するため、現地での留学フェアへの参加、本学独自のオンライン留学フェアを開催するとともに、他機関が開催するオンライン留学フェアに参加する。また、アンケート結果の分析により、より効果的なフェアの内容を検討するとともに、優秀な留学生の受入に繋がるよう、重点国・地域を踏まえて留学フェアに参加、またはオンラインフェアを開催する。 ・アドミッション支援デスクの対象国、地域拡大による留学生出願支援を継続するとともに情報収集を行う。 以上のことに取り組み、令和5年度は3000人台の留学生数（バーチャル留学（受入）含む）の達成を目指す。
		5-1-②	学生の国際性を涵養する短期海外派遣体制の整備充実	山本理事	国際部国際学生交流課	5-1-②-1 ・令和4年度から再開した短期海外研修のプログラムを継続実施するとともに拡充させる。 ・バーチャル留学対象校を拡大させるとともに、新たに学生向け説明会等実施することで、バーチャル留学プログラム(OU Virtual Study Abroad Program)受講者について、前年度比1割の増加を図る。 ・令和5年度は、1,100名程度の日本人派遣学生数（バーチャル留学（派遣）を含む）の達成を目指す。 5-1-②-2 ・帰国後の体験談発信や、留学相談員として、後進の学生から相談を受けたり助言を行ったりする体制を整え、ネットワーク化を図る。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-2.	卓越した学術研究のグローバル展開	5-2-①	海外の有力大学等との戦略的組織間連携（GKP）による世界的に卓越した研究拠点の形成	田中学理事	国際部国際企画課	本学の重点研究領域に係る学内シーズを把握し、同シーズに基づき連携の可能性について執行部間の協議を行い、グローバルナレッジパートナー（GKP）の枠組みでの連携合意を進める。また、オンラインを含むシンポジウム等の開催を大学組織間で支援する。具体的にはシンポジウム等開催に係る経費、運営、情報発信等を支援することで、本学の重点研究領域等のステータスを高めるとともに、研究ネットワーク拡大を図る。
		5-2-②	高い独創性を有する研究を推進できるグローバル若手研究者育成制度の整備充実	田中学理事	国際部国際企画課	引き続き、若手研究者の海外派遣促進のため、派遣期間中の代替人件費等の経費支援を行うとともに、帰国後の成果報告会の開催等を通じて研究活動のさらなる国際展開に繋げる。
		5-2-③	海外への戦略的な情報発信の強化	田中学理事	国際部国際企画課	①優秀な留学生受入のためのオンライン説明会の実施、より適切な情報発信を目指したウェブサイトの改善 ②本学の研究成果の国際的な認知度向上を目的とした以下取組の実施 ・米国、英国の団体を通じた研究成果の配信（本学研究紹介サイト（英語版）のユーザー数増加（前年度比2%増）を目指す） ・イベントブース出展等による海外での広報活動 ・ウェブ英字ニュースレターGlobal Outlookの作成、配信（ページビュー数：前年度比1%増を目指す） ・グローバルナレッジパートナー（GKP）等の戦略的パートナーとの連携活動を中心としたウェブサイトにおけるグローバル・エンゲージ活動の情報発信 ③現状分析に基づく最適な広報手法の検討、実行

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-3.	グローバル連携による社会課題への挑戦	5-3-①	海外の有力大学等との戦略的組織間連携（GKP）による最先端の共同研究、グローバル人材育成を通じた、グローバル課題への挑戦	田中学理事	国際部国際企画課	ネットワーク事業において、国際共同研究のマッチング等を通じてHealth、Well-being、Sustainabilityの各テーマにおける核となる研究連携を推進し、ネットワーク内での水平展開を図る。同時に、大阪・関西万博での情報発信に向けた準備を進めるため、パートナー大学間での進捗確認を行う。また、GKP候補校との交渉を継続し、連携合意を目指す。さらに、令和4年度に新たに合意したGKP校を含む連携機関とのオンラインを含めたワークショップ/シンポジウムを実施し、特に若手研究者の研究発表と情報交換の場として活用し、新たな連携の構築を目指す。
		5-3-②	ASEANキャンパスの深化・広域化、現地社会に寄り添い、地域ニーズに応える共同研究・高度人材の育成の推進	田中学理事	国際部国際企画課	・ASEANキャンパス設置校・連携機関として令和4年度に設置したマレーシアにおいて、現地キャンパスを活用した若手研究者交流や学生交流を開始する。 ・ASEANキャンパス未設置であるフィリピンにおいて、設置校・連携機関の候補大学等と教育プログラム等に関する実質的な連携の可能性について意見交換を続ける。 ・ASEANキャンパス設置校及び連携機関と交渉し、学生交流プログラム（受入・派遣）の充実を図り、受入・派遣学生数の令和4年度比2割程度増加を目指す。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-4.	全学規模のグローバル展開に向けた推進体制の強化	5-4-①	全学的な国際戦略の立案機能の強化	田中学理事	国際部国際企画課	・ 本学のグローバル連携の進展や国際動向等を踏まえた新たな国際戦略（基本理念・方針）の検討 ・ 本学のグローバル連携に関する取組の全学的展開に向けたグローバルイニシアティブ機構と連携部局等との連携強化、学内外先進事例・グッドプラクティスの情報収集・学内共有及び施策への反映
		5-4-②	全学的な国際連携体制の強化	田中学理事	国際部国際企画課	・ 国際交流委員会におけるグローバル連携に関する取組の全学展開、課題の解決等に向けた意見交換の活性化とグッドプラクティスの情報共有推進 ・ 国際交流委員会及び傘下WGの機能強化、運営効率化に向けた見直し・再構築

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-5.	アンコンシャスバイアス克服による女性高度人材の育成	5-5-①	女性比率が低い分野における戦略的なすそ野拡大	豊岡理事	企画部ダイバーシティ推進課	・女性比率が低い分野において戦略的にすそ野を拡大するため、アンコンシャス・バイアスの克服、小中高生に対する理工系分野の進路選択支援及び経済的不安の解消による博士後期課程進学促進を行う。 ・ジェンダー、SOGI等に対するアンコンシャス・バイアスを自覚し、その影響を最小限に抑えるため、学部段階からアンコンシャス・バイアスについて学ぶ機会として、全構成員を対象とするe-learningによる研修を継続実施、さらに新たに部局横断科目「ダイバーシティ&インクルージョンの世界」を開講する。 また、学部段階からのキャリア教育としての「女性リーダーとの対話」を継続開講する。 ・女子学生割合が低い学部の学生の多様化・女子学生割合の向上による大阪大学のダイバーシティの推進及び活性化を目的として、入学支援金制度を継続する。 ・女子学生によるネットワーク（asiam：アザイム）による入試広報、小中高生への働きかけをさらに進め前年度より女子学生入学者数増を図る。（例：小学生向け実験教室、母校派遣、女子高校生向けイベントへの参加、女子学生だけの広報誌の作成等）
		5-5-②	女性リーダー育成に向けた産学連携事業の推進	豊岡理事	企画部ダイバーシティ推進課	・大学、研究機関及び企業等における指導的地位（リーダー層）の女性比率が低いため、産学連携事業（DE&Iコンソーシアム・ハンダイの構築）及び博士号取得促進等により女性リーダー育成に取り組む。 ・指導的地位（リーダー層）の女性比率を高めるため、女性研究者循環型育成クラスター（DE&Iコンソーシアム・ハンダイ）に参画する企業等を拡充し、産学連携事業としてイノベーション女性活躍推進プログラム、育休中キャリアアップ支援プログラム等を実施する。 ・産学クロスアポイントメント（企業とのクロスアポイントメント）を推進する。

令和5年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-6.	女性研究者の研究力向上に向けた環境整備	5-6-①	ライフイベントを迎えた研究者の研究活動の円滑化を支援する取組の強化	豊岡理事	企画部ダイバーシティ推進課	・研究と育児・介護等を両立する施策として研究支援員を配置する「研究支援員制度」及び短期的・集中的な支援である「プラスONE（短期教育研究支援）制度」を引き続き実施する。 ・妊娠期間から代替教員の補充が可能となるよう、出産予定女性教員の代替教員補充の弾力的運用制度を継続実施する。 ・任期付き研究者が、産前・産後休暇や育児休業を取得しやすくなるよう支援する制度を検討する。（ストップ・ザ・クロック等） ・ライフイベントにより研究を中断した者及び一旦退職して復帰する者について、進歩する研究技術・知識を習得するサポートの検討 ・民間の保活・子育て支援サービスを活用し、0～1歳児の待機児童解消を図る。
		5-6-②	インクルーシブ・マネジメント力の向上及び Diversity & Inclusionの推進による研究領域の開拓、女性研究者の育成	豊岡理事	企画部ダイバーシティ推進課	・教員選考において、選考にあたる者の選出等において性別等の多様性を確保し、アンコンシャス・バイアスの研修受講を義務化できるように検討する。また、選考にあたり出産・育児等のライフイベントを配慮できるように検討する（選考委員への研修、人事選考マニュアルの作成）。 ・部局の特性に合わせたFDを継続実施する。 ・海外から優秀な女性研究者を採用する際に、パートナーも同時に招へいする制度を検討する。（パッケージオファー） ・女性教員の研究力向上のため、女性教員を対象とする研究費支援を実施継続する。 ・女性研究者の外部資金獲得状況等のデータベースの活用を検討する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
5-7.	InclusiveでWell-beingなキャンパス環境創出の促進	5-7-①	SOGI、障がいを尊重するDiversity&Inclusionの基盤整備	豊岡理事	企画部ダイバーシティ推進課	・多様な個性が輝くキャンパスを実現するため、SOGI及び障がいに関する意識啓発のためのセミナーの実施継続、施設等のハード面での整備を拡充する。 ・大学内外に取組について周知するため、PRIDE指標のゴールドを継続して獲得する。 ・障がいのある学生・教職員が学修、研究、就業に取り組めるよう、必要な環境整備及び支援体制を拡充する。
		5-7-②	構成員の子育て支援の強化ならびに心身の健康づくり施策の推進	豊岡理事	企画部ダイバーシティ推進課	・性別にとらわれず個性と能力が発揮できるインクルーシブな職場環境を実現するため、男性の育児休業等取得を促進できるように、男性教職員と管理職を対象に研修を実施する。 ・研究支援員制度を男性研究者も対象としたことによる、男性の家事・育児への積極的な参加の促進継続。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
6-1.	多様な働き方を促進し、 個々人が輝ける場の構築による豊かな時間の創出	6-1-①	事務・事業の見直し、効率化	豊岡理事	総務部総務課	・ICTの活用等による業務の更なる効率化（教務窓口業務対応チャットボットを6部局に試行導入、業務システムによる人事関係手続きのWeb化） ・事務系システムDX構想の推進（機能面の向上・シームレスなデータ連携に加えて、ランニングコスト削減を実現する新たな勤務管理システムの導入。令和5年10月導入予定） ・RPAの積極的活用（共通的に使用できるフローの拡充・学内構成員向けのRPAポータルサイトの充実等による利活用の促進。令和5年度に20フローをポータルサイトに掲載予定） ・全学の事務の業務量・業務フローの整理、標準化を通じた業務の集約や業務フローの統一（教務系業務を完了） ・各部署に必要な人員を算定するモデルを構築
		6-1-②	働き方・働く場所の弾力化	水島理事	総務部人事課	新たな在宅勤務制度の運用状況、オンラインによる研究活動の状況等を確認・検証するとともに、KPI達成に向けての課題を把握し、必要な見直しを行う。 新たな在宅勤務制度に適合した形で新勤務管理システムを導入する。
		6-1-③	豊かで自由な時間を創出するための快適で魅力あるオフィス環境の整備	豊岡理事	総務部総務課	・令和4年度に取りまとめた新たなオフィスコンセプトの基本方針である『快適で魅力あるオフィス環境の検討WG（第1フェーズ）報告書』に基づき、本部事務機構棟及びICホールを対象とした、オフィスレイアウトの変更・家具更新・改修工事に係る全体計画（オフィスレイアウト図・家具リストの作成等）を立案する。
		6-1-④ （研究企画課）	各教職員の役割の明確化、適切な評価と処遇への反映	尾上理事	研究推進部研究企画課	6-1-④-2 バイアウト制度…実績を精査し、教育企画課と連携しながら、授業等の教育活動等及びそれに付随する事務等の業務代行の件数を増加させる 直接経費からのPI人件費の支出…実績を精査しつつ、制度について周知を図ることで、前年度以上に制度利用者を増加させる

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		6-1-④ (人事課)	各教職員の役割の明確化、 適切な評価と処遇への反映	水島理事、豊岡理事	総務部人事課	【事務職員の新キャリアパス制度の実装】 事務職員人事制度基本方針等に基づいて、新たなキャリアパス制度を順次実施していき、令和4年度に引き続き専門職として活用し得るポストを少なくとも5ポスト選定し、当該ポストを戦略的に活用する。また、採用、研修、人事異動、登用試験、評価など一体的な改善に努め、事務職員の戦略的な採用・育成・配置を進める。特に職員のキャリアデザインに関する意識を高めるための研修を充実させ、キャリアパスへの理解を深める。 併せて、組織全体のコストパフォーマンス向上や人件費抑制の観点等を踏まえ、事務職員の評価基準、評価結果の給与への反映方法の見直しに向けた検討を開始する。 【教員の役割明確化と処遇】 令和4年度までの教員評価実施状況を調査・把握したうえで、個々の教員の活動の実績をより適切に評価し、処遇に反映できるよう、教員業績評価制度、役割分化制度のあり方について検討する。

令和5年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
7-1.	地域・社会・市民との共創を通じたブランドの醸成	7-1-①	OUグローバルキャンパスの持続的発展のための活動	田中（学）理事、尾上理事	OUGC運営会議（人文学研究科質面事務部、附属図書館）	学内外の関係機関と連携しつつ、全学的な視点から管理・運営ができる環境・システムの構築 ・OUGC運営会議による適切なガバナンスのもとで、所定の施策を円滑に推進するとともに、令和4年度取組のフォローアップを踏まえつつ、令和5年度以降の取組計画を策定する。 ・外国語図書館における本学教員・学生と連携した地域連携活動とこれに資するグローバルな資料の整備を推進するとともに、人的体制整備の一環として職員研修を実施する。 ・地域の関係団体と連携した街づくりの在り方について引き続き検討を進め、質面キャンパスを積極的に活用したイベント、シンポジウム等を開催する。 ・学内外の組織・団体と連携し日本語・日本文化の発信機能を高めるサテライトラボを隣接地域に設置することで、社会学共創基盤の一端を整備する。 ・外国語教育と外国学研究の実績を踏まえつつ、グローバル人材育成の観点から、人文学研究科に複言語・複文化共存社会の実現に向けたセンターを新たに設立する。 ・外国語・外国学研究等に係る文献、音声データ等を、附属図書館との連携のもと、デジタル・ライブラリーとして整備するための検討を進める。
		7-1-②	ミュージアム・リンクス及び21世紀懐徳堂による社会学連携の総合的展開を軸にした社会学アウトリーチ活動全体の活性化	泉谷理事	共創推進部博物館・適塾記念センター等事務室	・21世紀懐徳堂において、CI中之島事業を中心に中之島エリアにおける社会学共創活動を継続するとともに、財務基盤の強化を図る。 ・ミュージアム・リンクスを正式に全学的な組織として設置し、実質的な活動を展開するとともに、人的リソースや予算の充実を図る。また、重要文化財である適塾の保存・活用のための取組を推進する。

令和5年度 O Uアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
7-2.	阪大ブランドに係るパブリック・リレーションズ（PR）の展開	7-2-①	受験生を対象としたマーケティングに基づいたPR活動	田中敏宏理事	教育・学生支援部 入試課	○対面とオンラインを組み合わせた本学の特長に関する積極的な広報活動の実施 ・競合大学との比較による大阪大学の個性（特長や強み）の差別化と第4期における施策を踏まえた入試広報活動（オープンキャンパス、進学相談会、高校・予備校ガイダンス、模擬講義等）の実施 ・オープンキャンパス、進学相談会等で大阪大学に接触のあった高校生と関係性を繋ぎ、出願まで至ったかをデータの的に管理できる仕組みの開発・構築 ○入試広報重点地域における高校教員との関係強化 ・高校からの講師派遣要望・予約等を一元管理する講師派遣・高校訪問等集約システムの活用検討及び学部との情報共有体制の構築及び連携強化（令和4年度から継続） ・入試広報重点地域へのアプローチ結果の検証と見直し及び継続的なフォローとアプローチ
		7-2-②	優秀な研究者が関心を寄せる戦略的なPR展開	尾上理事	研究推進部研究企画課	7-2-②-1 研究戦略の可視化 部局URAネットワークによる部局執行部支援の実施

令和5年度 OUアクションプラン

重点戦略番号	重点戦略	主要取組番号	主要取組	担当理事	記載担当事務	令和5年度の計画
		7-2-③	ステークホルダーとの共創を活性化させるためのPR強化	福田理事、金田理事	企画部質保証推進室	○公式ウェブサイト、研究専用ポータルサイトResOU、マイハンダイ、マイハンダイアプリなどのシステム運用とコンテンツ作成、ならびに広報誌（大阪大学ニューズレター、OU Research Gazette）の発行と送付（ステークホルダー等）、報道機関に対するプレスリリース、SNSの活用などにより、学外関係者・学内構成員に大阪大学の活動、取組、特長等を発信し、大阪大学への共感を得ることを目指す。また、コンテンツやシステムに対する意見、アンケート結果などを踏まえ、さらなる改善を図る。 ○マイハンダイで使用しているコンテンツ・マネジメント・システム（CMS）に係るプログラミング言語のサポートが終了しているため、CMSのバージョンアップによるリニューアル方策を検討する。 ○大学の戦略や取組を効果的に広報するために、新たな体制を構築し、関係部署と協働しながら適切なブランドマネジメントを行うことで中長期のブランドの醸成を図る。 ○「統合報告書」について、内容の更なる改善を図りつつ、引き続き作成・発行する。 ○大学と、大学を取り巻く社会の状況や課題を、大学役員が産業界・金融界のトップ層と議論し、今後の共創活動の推進、大学の将来構想に生かす『大阪大学と経済界の「連携の場」』を立ち上げ、継続的な連携を行う。